

# ふしょうっこ日記

令和7年12月18日



## 1年あきまつり

1年生が「あきまつり」を行いました。秋に採れたドングリ等を使っておもちゃをつくって店を開き、他のクラスの友達を招待しました。1クラスを招待した後、振り返りを行いました。「おもちゃまつりをしてみて、どうでしたか」と担任の問いかけに、「楽しかった」と多くの子供たちが答えました。その後に、「もっと詳しく言えます」と手を挙げた児童がいました。その児童は、自分たちのグループの行動を振り返り、改善点について話しました。さらに改善したい児童が多く、次の時間までにより良くするための時間を取るようになりました。

次の時間は、他の学級子供たちがまつりに参加しました。終わった後、また振り返りの時間になりました。よかったこと、うまくいかなかったことを子供たちが次々に発表していきました。その様子を見ていて、4年生のやまのこ体験学習の姿と重なりました。4年生の子供たちは、体験学習を終えた後に、前の児童とは違う内容の感想を次々に話す姿が見られ、所員さんに褒めていただきました。その姿は、1年生、また保育園や幼稚園の時代、さらに言葉を話し始めた頃から育まれてきたものだと感じました。今回は、子供たちの発表に、必ず担任がうなずいたり、話の内容について認めたり、さらに質問をしてみたりと丁寧に反応を返していました。その反応に対して、もっと話したいという気持ちが高まっているように感じました。子供たちのまわりの大人が、子供たちの話をしっかりと受けとめて反応を返すことで、どんどん考えて表現する力を付けていくのではないかと  
思う場面でした。

